

## 平成30年度の年間の活動

### 1. 「池田の森」の1年と池田の森農園クラブの活動

#### 1) 団地の1年を写真でふりかえる

15年を経た池田の森。人が暮らす住宅地だけでなく多様な空間が共存していることが豊かさを実感させてくれる。住宅地エリアは静かに成熟度を増し、中心の畑では1年を通して野菜が賑やかに育ち、緑道を会場にして開催する年2回の「森の市」は今年度も多くの人で賑わった。



#### 4月 農園クラブ主催

みんな大好きな恒例のタケノコ掘り。今年度は例年になく早いタケノコ掘りとなった。散歩しながらお茶畑の丘を15分ほど登った竹やぶで今年も春の恵みを掘り当てた。



#### 4月 クルドサックの風景

クルドサックにはケヤキとナンジャモンジャの木がある。最初はケヤキが2本だったが7~8年前の台風でケヤキ1本が倒れ、代わりにナンジャモンジャの木を植えた。桜の花が散ったのち、ナンジャモンジャの白い花が木全体を覆うように咲く。木の成長を待つのも楽しい。



#### 4月 春の森の市

緑道に多くの店が出店。地元駿河湾のしらすの販売もあり多くの人で賑わった。



## 5月 農園クラブの会合

アトリエにて開催

- ・4月の活動報告
- ・畑の区画割表の件
- ・モグラ対策の実施について
- ・池田の森バーベキューの実施について
- ・まちネット総会についてほか



6月 田植えの終わった小さな田んぼに毎年野生のカルガモのつがいがやって来る。稲が大きくなる7月後半までほぼ毎日早朝から昼にかけて見ることができる。はじめて見た時にはびっくりしていた住人も、今は団地の風物詩として飛来を楽しみにしている。



## 7月 池田の森バーベキュー

毎年畑の夏野菜がたくさん採れる夏休み前に農園クラブが主催して開催される。

すっかり大人っぽくなった中高生や農園クラブ以外の住人も参加して楽しい1日となる。



## 夏休み 緑道

畑脇の緑道の茂みの木には畑のコンポスターで生まれ育ったらしきカブトムシがたくさん出現する。

子供達はワクワクを抑えられない様子で、毎日何回も来ては上を見上げ探している。



## 8月 夏真っ盛りの青田

広く見えるが、正味60坪強の小さな田んぼ。ジャンボタニシ農法のおかげで、完全無農薬、除草手間ゼロの手間いらずの自然農方が成り立っている。

昭和40年代までは田んぼが広がっていた地区の小学校区に今あるのはこの小さな田んぼだけ。



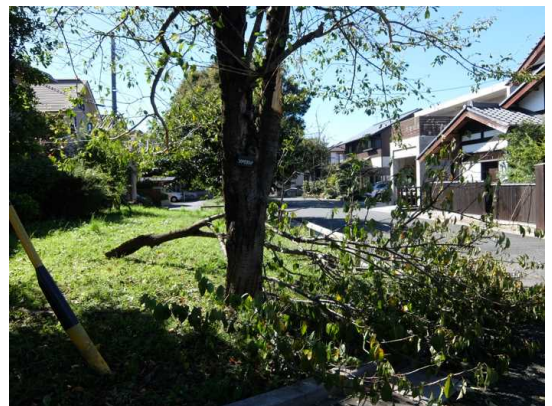
## 9月 二度目のモグラ対策

6月に実施した農園のモグラ対策の2回目。ハーブなど自然由来の薬品を希釈して噴霧器で全区画の通路部分やモグラ塚に散布した。薬物は入っておらず、液体の匂いをモグラが嫌がり逃げて行くらしい。野菜にかかっても問題ないという。



## 9月 台風24号

9月30日の深夜から10月1日の未明にかけての台風24号の大風で緑地のソメイヨシノの枝が折れてしまった。緑地愛護会から市の公園緑地課に連絡を入れ、折れた枝の処理はしてもらった。幸い木が枯れるような大きな被害ではなかった。



## 10月 秋の森の市 バイオリンコンサート

池田の森アトリエでバイオリン教室を持っている先生のバイオリンデュオが、投げ銭方式でミニコンサートを開催。池田の森にすてきな音色が流れ渡った。



## 10月 秋の田んぼ

近隣で見かけることのできない稲のはざ掛け。

田んぼの風景は季節の移り変わりを美しい形で教えてくれる。田おこし、田植え、早苗、青田、出穂、実り、稲刈り、はざ掛け、冬田。カルガモ、カエル、夏のトンボ、ツバメ、赤とんぼなど。

この田で毎年約60kgの米が収穫できる。



## 12月 テレビ局取材

地元テレビ局の取材があった。住宅地の中の農園とコミュニティの取材ということで、農園クラブの会長はじめメンバーが対応した。冬野菜の最盛期で、カリフラワー、ブロッコリー、ダイコン、などをレポーターが話を聞きながら収穫するところを撮影して、後日ワイド番組にて放映された。



## 1月 静岡県住まいづくり課視察研修

県住まいづくり課主催の研修会で関連部門職員17来訪。池田の森が、静岡県の進める豊かな暮らし空間創生事業のモデル地区となっているため、度々いろいろな団体が視察に訪れる。



## 1月 無農薬の野菜作り講習会

静岡市内で長く無農薬栽培の野菜作りをしている農業家をお招きして、無農薬の野菜作りについての話を聞いた。クラブのメンバー以外の参加もあり、土作りが重要であることや、雑草やモグラなどとの共存も大切なこと



など興味深い話が聞けた。

## 2. 農園クラブの年間の主な活動、行事

- ・ 総会、その他の会合
- ・ タケノコ掘り
- ・ バーベキュー大会
- ・ 森の市協賛
- ・ 他団体との交流
- ・ 専門家講師招聘
- ・ 行政との交渉、対応
- ・ マスコミ対応
- ・ 畑の維持管理
- ・ 樹木維持管理



農園の維持管理にかかわる細かなことから池田の森全体に関係することまで今年度も農園クラブの役割は幅広かった。

## 受賞を契機に新たに取り組んでいること

### 1. 市が管理する樹木の剪定は樹木医を通して行政と協議

樹木医と相談しながら維持管理の方法を引き続き検討している。2前に市が実施した定例の街路樹剪定で、強く切り詰められたケヤキが大きく樹皮剥がれを起こし、今でも枯れる恐れがある。アドバイザー役の樹木医を通して市の管理担当課と連絡を取り、市の施策として当樹木医に剥がれた部分の手当をしてもらった。加えて樹木医から池田の森の樹木の剪定方法についても助言をしてもらい、木の樹勢を損ねない樹形を残す剪定方法に変更になった。



今回のクルドサックのケヤキ剪定-内側の枝を梳く

1月、市が実施した2年ぶりの定例剪定では早速、樹形を維持する剪定に変更された。樹木医と連携することで、市担当課との交渉もしやすくなった。市の担当者や剪定作業する造園会社は2年ほど変わってしまうので、樹木医と相談しながら行政と交渉するやり方は今後も続けていきたい。



右写真：上-2年前の強剪定、中-強剪定あとの樹皮剥がれ、下-1月の樹勢をそがない剪定

## 調査検討費の使途

- 樹木医招聘、打ち合わせ費
- 樹木維持管理ガイドブック作成準備費
- 池田の森バーベキュー協賛
- 池田の森の市協賛
- 専門家招聘
- 他団体との交流事業
- 活動費、旅費交通費

## 近い将来取り組まなければならない課題

池田の森は農園が中心にある風景のなかで、農園を介して住人同士がゆるやかにつながる心地の良いコミュニティを目指してきた。15年が経ち畑のある風景やゆるやかなつながりについては十分その目的を達成できているが、これからは活動を支える中心世代が高齢化した時にどうやってゆくのかを考えなければならない。次世代にこの環境を良好に保ったまま渡すためにも、明文化されていない樹木、設備などの維持管理や所有について分かりやすく整理して文章化していきたい。そして農園クラブに入っていない住人も含めて「池田の森」を再評価できればと考えている。